


ふりがな 氏名	さいとう ふみこ	都道府県	宮城県	
	齋藤 史子			
所属/肩書	宮城教育大学大学院在学			
私の ESD活動	仙台いぐね研究会に所属し、環境教育を大学生で企画・運営し市民に情報発信している			

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

私は、宮城教育大学社会科教育人文地理学を専攻し小金澤孝昭教授の研究室に所属しています。また“持続可能な開発のため教育”について世代や職種の異なる方々と連携し、NPO仙台いぐね研究会を運営し国内外で幅広く活動してきました。現在福島県委託事業「大学生の力を活用した地域活性化事業」で、西会津町の過疎化・高齢化が深刻な限界集落とされる地域で、地域の方々と共に活力に繋がるよう活動をしています。

活動内容は、第1に地域を知り他地域の人間の視点として地域資源(歴史・景観・自然・人的ネットワーク等)の発掘です。それを地域の方にお宝マップとして可視化・共有化してもらい、地域の魅力を再発見・再認識してもらいます。第2に、私たちの専門分野、人文地理・農業地理の学びを実践活かし、主要産業の農業調査(世帯状況・農業労働力状況・他出した親戚調査)を実施します。地域の資源を地域の人と共に認識します。

現在活動を行っている西会津町の富士地区は、長年都市部との祭りや四季の行事を活かし交流人口を増やしていました。しかし、今後も高齢化が進行する地域を考えると、農地維持や経済的な支援者は最も身近な親戚ネットワークであると提案しました。その結果、集落から他出した親戚に「四季の便り」として地域の情報を発信し、今後農産物や地域伝統食の加工品・レシピ等の直販に繋げていくことになりました。

現在東北被災地は、過疎化や高齢化が進行していた地域はその速度を格段に早めた状況にあります。その中で、地域での経済的に生業や営みを維持しながら環境を守る大変さに悩まされています。東北地方の現状は、今後日本各地で起こり地域差を孕みながら課題になっていくと考えられます。今の宮城県・被災地東北の現状を日本のESDと向き合う若者と、世界の人々に発信したいと思っています。

**今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？**

限界集落での地域活性化の取り組みをして感じるのは、若者が知らなければならない知恵・知識や技術や営み、文化などが沢山あるということです。若者が評価し、情報発信のツールを活用して光を当てることがESD発展の為にまずできることだと思います。